

骨芽細胞周囲で石灰化が進むと骨芽細胞の一部は石灰化した骨基質に覆われ【骨細胞】

https://l-hospitalier.github.io

2020, 11

となる。 骨細胞はスクレロスチン sclerostin という蛋白を分泌し骨再生を制御。 ス クレロスチンに異常があると骨吸収が阻害され、骨形成が進行するので骨粗鬆症の治 療薬として抗スクレロスチン・モノクローナル抗体、ロモソズマブ\*1(イベニティ®) が研究されている。 カルシウムとリンの制御は【副甲状腺ホルモン PTH】、ビタ ミンD、FGF-23 (Fibroblast Growth Factor-23) の3種が主要因子。 トニン、グルココルチコイド、甲状腺ホルモン、性腺ホルモンなど。 副甲状腺主細 胞膜上には G 蛋白共役受容体の Ca<sup>2+</sup>センサーがあり血中の Ca<sup>2+</sup>と結合すると PTH 分泌を<mark>抑制</mark>(通常 Ca<sup>2+</sup>は細胞分泌促進に働くが、PTH の場合は逆)。 骨で骨吸収↑ ②腎尿細管で Ca²+再吸収↑、PO₄再吸収↓ ③腸管で Ca²+吸収↑に働 く (下図)。 即効性は②で血清 Ca<sup>2+</sup>の濃度上昇と維持に寄与。 PTH は 84 アミノ 酸のペプチドで骨への直接作用は複雑で、生理的濃度であれば骨芽細胞表面の PTH 受容体と結合し骨芽細胞前駆細胞の成熟を促進、アポトーシスも抑制。 しかし刺激 された骨芽細胞は破骨細胞分化因子である RANKL 生成を増加、PTH は骨髄間質細胞 を刺激して L-6 産生を亢進して破骨細胞による骨吸収と Ca<sup>2+</sup>放出を増加させる(骨 <mark>異化作用</mark>)。 PTH は、25 ヒドロキシ Vitamin D を 1,25 ジヒドロキシ VD(カルシ トリオール)に変換し、カルシトールは腎での  $Ca^{2+}$ と  $PO_4$  再吸収  $\uparrow$  を起こす。 方 PTH は骨芽細胞前駆細胞の PTH 受容体と結合すると共役 G 蛋白 Ga。を介してア デニル酸シクラーゼ活性化、細胞内 cAMP 増加で骨芽細胞のアポトーシス抑制、IGF-1 分泌により骨芽細胞への成熟が促進される(骨同化作用)。 同化/異化作用は PTH の作用時間に影響され 1~3 時間の PTH 上昇では骨形成促進が優位だが、原発性/2 次性副甲状腺機能亢進症では(骨形成は不変だが)骨吸収が増加、正味の骨量は減少 する。【ビタミン D】にはコレカルシフェロール(cholecalciferol、VD2)とエルゴカ **ルシフェロール**(ergocalciferol、 $VD_3$ ) があらが、前者は体内の7-デヒドロコレステ ロールが皮膚で短波長紫外線により酵素の介在なしに合成される(内因性)。 は植物細胞でエルゴコレステロールが紫外線吸収により合成されたものを摂取する (外因性)ので、VDは正確にはビタミンではない。 VD2、VD3とも肝で水酸化さ れ 25-ヒドロキシ Vitamin D (25- (OH) D, カルシフェジオール) になり腎近位尿細管 や他の組織で PTH 依存性に再水酸化され最終的な活性型ビタミン D(カルシトリオ カルシトリオールは腸上皮細胞の核内受容体に作用 ール、1,25-(OH)₂D) となる。 し腸上皮細胞の刷子縁蛋白の合成促進により Ca<sup>2+</sup> 吸収増加、同時に血中への移動も またケラチノサイト(表皮角化細胞)の分化促進作用もあり、乾癬の治療に も使用。 【線維芽細胞増殖因子-23(Fibroblast growing factor-23、FGF-23)】はフ オスファトニンと呼ばれるリンの恒常性を維持する蛋白の1種で251アミノ酸から なり、骨細胞や他の細胞にも発現。 フォスファトニンは腎尿細管に働きリンの排泄 を増加させるとともに、腎尿細管細胞でのカルシフェジオール(25- (OH)D)の 2 段 階目の水酸化を抑制しカルシトリオール (1,25-(OH), D) 産生を減らすとともに Ca²+ やPO4の移動を減少、PTHの分泌を亢進させる。 FGF-23 産生の異常亢進のある常 染色体性低リン血症性クル病は蛋白分解抵抗性 FGF-23 によって起きることがヒト

とマウスの実験で知られている。 より高頻度の X 染色体性低リン血症性クル病 (X-linked

Hypophosphatemic rickets XLH)はエンドペプチダーゼ PHEX の遺伝子異常でおきるが、FGF-23 との関連は不明な点が多い。 間葉系良性腫瘍がフォスファトニンを分泌する腫瘍性骨軟化症(oncogenic osteomalacia)が知られている。

#264